



夫木和歌抄

卷第十四

1.765
14



131

六中 — 000

門 4
1965
14

史本和⁹一抄巻第十

枯部⁴一五

題⁴

虫⁵ 小鳥⁵ 鶉⁵ 鳴⁵

持衣 秋衣 葛⁵ 菊⁵

秋水



牛⁴ 虫⁴ 西⁴ 洞⁴ 隱⁴ 士⁴ 三行分人

後京極指政

ひら〜 けい〜 ぎ〜 けい〜 の ぼ〜 あり 秋の 露

六⁴ 年⁴ 秋⁴ 中⁴ 日

あ〜 けい〜 あり けい〜 の ぼ〜 あり

弘長元年百首 信實の長

あ〜 けい〜 あり けい〜 の ぼ〜 あり

花月百首 巻終和尙

あ〜 けい〜 あり けい〜 の ぼ〜 あり



件数
八



嘉徳三年 赤白の伝承百首

後二位左階卿

わらわのあはれをいふははらわらわのあはれをいふは

西暦二年 百首

年 連法師

年とをぬあたらふあはれ^虫のたむすあはれ^虫のたむす

建保三年 秋十又首 寺合 秋虫

赤白の伝承

月かけのうらみは色なりけり^秋あはれ^秋のうらみは

西暦秋年中

後倉右大臣

あはれ^庭のうらみは^秋のうらみは^秋のうらみは^秋のうらみは

赤白の伝承

あはれ^虫のうらみは^虫のうらみは^虫のうらみは^虫のうらみは

日吉社十又首 寺合

善法和音

あはれ^秋のうらみは^虫のうらみは^虫のうらみは^秋のうらみは

田舎虫とらふこと 西暦二年

あはれ^虫のうらみは^虫のうらみは^虫のうらみは^虫のうらみは

寛元四年 七月十條卿 寺合 西暦秋

後二位左大臣

あはれ^虫のうらみは^虫のうらみは^虫のうらみは^虫のうらみは

建保三年 赤白百首 後成女

622

文和七年中書令兼左大臣兼右大臣兼大納言兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言兼大少進兼大少納言

兼大進兼大少進兼大少納言

11 しのびにきりあはれしひ色枯れゆくまゝに
琴

山本宗吉

花山虎中兼

思

しりあはれしひ色枯れゆくまゝに
合

忠孝入秋思涼

日

下流わじりしひ色枯れゆくまゝに
合

書きぬ秋思涼

千里

とくきりあはれしひ色枯れゆくまゝに
合

思入る秋思涼

民のあはれ

秋のあはれしひ色枯れゆくまゝに
合

君臣の命

弟中納言

しりあはれしひ色枯れゆくまゝに
合

忠

信貴の命

あはれしひ色枯れゆくまゝに
合

まわり

衣笠の命

里のあはれしひ色枯れゆくまゝに
合

遠保三年

順徳院

あはれしひ色枯れゆくまゝに
合

和弁市初彦

後京校核改

たすしのれりのちりかたをねとみし松島の

後京赤首奇

後二伝赤首奇

あつちなるあつちのあつちの子日せ

寛文元年女入内月日松島出ぬ日

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

あつち忠房

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

寛文元年百首松島 日

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

あつち赤首奇

あつち上人

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

あつちとみち

あつち上人

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

文治元年廿社百首 皇太子天皇太子後成々

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

寛文元年百首 前中納言松島

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

歌集中

殷富門院大輔

さうりくともなむ井るの鳥よ何たひてうのきこりて

西行の鳥

西行の人

壁上

文集百首相思又と撰書は主書思懐智又後

耳秋

無後和音

さうりくともなむ松色よと云としてあ明らうりよひひの

寶治二年百首境出正三位知家々

あつ月の比とあつうさうりくとも夜のあつらふと

三百首四十一

中勢々みこ

永し

と百首二十合書出云中文指と又歌房々

獨り

四集中

獨念右大臣

あつ月の鳥のさうりくともさうりくとも

建保三年名百首鳥來門院

流るる水とあつうさうりくともさうりくとも

さうりくとも

若中御定嗣々

現存六典

孫右大臣

源仲正

此の

きぬさの葉の枕の寝るまにありそひてさうよりの

久世百首

翁集後醍醐天皇

いぬさの葉の寝るまにありそひてさうよりの
えらね圓くさくさうよひて

重く

花のうらみはひらひらと舞うてさうよりの

久世百首

翁集後醍醐天皇

たつひら花の中ははらりやうらみはひらひらと舞うて

とねり

武蔵守内親王

いづこそよふとふすうらみはひらのありやうとまふ

久世百首

大炊四門右大臣

かきよあまのつとてん少りすまきあまの

心治元年はま命合民アウ花光

あつたてあまのつとてん少りすまきあまの

橋門院内百首

花中細公連房々

海よりそよふとふすうらみはひらのありやうとまふ

あつたてあまのつとてん少りすまきあまの

あの中納言圓信々

あの中納言圓信々

文永十一年春曾そ中 氏方内親王

下... ^昔 ... ^里 ...

之指歌

皇之位知歌々

新六六
り六六

枯るも... 神...

4
小鳥の持 三行句ん

百首中

順徳院日記

新統古社下

... ^踏 ... ^あ ...

建久七年... 中納言定家

... 神... ^く ...

之指歌

各其也書

新六六

... ^鳴 ... ^日 ...

氏名の御

... ^音 ...

光後為書

... ^日 ... ^雨 ...

後實為書

... ^日 ... ^早 ...

為音為書

... ^日 ... ^鳴 ... ^色 ...

天嘉元年八月... 合中為書

... ^十 ...

らんのる野のそらけりよはむいもあふらう

百首中一

えむまもあふあけ

鳴き

高野の野のそらけりよはむいもあふらう

遠久二年百首

前中絶て定家卿

あふらのそらけりよはむいもあふらう

村中一

原重房

新撰古雅上
あふらのそらけりよはむいもあふらう

歌集

正三位重房

新撰古雅下
あふらのそらけりよはむいもあふらう

正徳二年百首

後二位重房

あふらのそらけりよはむいもあふらう

歌集村中

日

あふらのそらけりよはむいもあふらう

百首中一

左中納言

あふらのそらけりよはむいもあふらう

百首中一

順徳院

あふらのそらけりよはむいもあふらう

百首中一

中務

あふらのそらけりよはむいもあふらう

仁安二年八月御盛々

あふら

法橋歌歌
 ううあひいほほは
 天仁三年三月廿九日
 公家鶴より
 公家鶴より
 公家鶴より

公家鶴より
 公家鶴より
 公家鶴より

公家鶴より
 公家鶴より
 公家鶴より

公家鶴より
 公家鶴より
 公家鶴より

公家鶴より
 公家鶴より
 公家鶴より

公家鶴より
 公家鶴より
 公家鶴より

公家鶴より
 公家鶴より
 公家鶴より

公家鶴より
 公家鶴より
 公家鶴より

公家鶴より
 公家鶴より
 公家鶴より

公家鶴より
 公家鶴より
 公家鶴より

新勅 秋上

おのゝけのふりてはるりけりしつゝ
天仁二年 叡山寺合鶏 一鶏 一鶏 一鶏

ふらふらとてはるりけりしつゝ
正治二年 百首

おのゝけのふりてはるりけりしつゝ
西行上人

おのゝけのふりてはるりけりしつゝ
家集

おのゝけのふりてはるりけりしつゝ
西行上人

おのゝけのふりてはるりけりしつゝ
家集

おのゝけのふりてはるりけりしつゝ
西行上人

おのゝけのふりてはるりけりしつゝ
家集

新 六六

おのゝけのふりてはるりけりしつゝ
家集

百首出年

百首出年

百首出年

百首出年

百首出年

百首出年

百首出年

百首出年

百首出年

百首出年

百首出年

百首出年

百首出年

あはれなる御心にて

後二信家階台

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

中二信家階台

あはれなる御心にて

中二信家階台

あはれなる御心にて

方印

贈記女師

中二信家階台

あはれなる御心にて

贈記女師

中二信家階台

あはれなる御心にて

贈記女師

中二信家階台

あはれなる御心にて

中二信家階台

あはれなる御心にて

あはれなる御心にて

三三三

永之百年一首秋夜 仲會の夜

あつたよるの月秋夜の影長を照らす

家集の影を照らす 源仲平

あつたよるの月秋夜の影長を照らす

家集の影を照らす

徳園法師

あつたよるの月秋夜の影長を照らす

三三三

源仲平

あつたよるの月秋夜の影長を照らす

建永五年毎日書中 氏方の御

あつたよるの月秋夜の影長を照らす

三三三 後景極持

あつたよるの月秋夜の影長を照らす

三三三 三行分トル

貞祐の七首の合向 前持衣判名定

三三三

あつたよるの月秋夜の影長を照らす

三三三

あつたよるの月秋夜の影長を照らす

百首并

宗達法師

東津のめうちのとりらてしめ風つらうやあめいそん

家業秋の并中持衣位二位皇孫位

あつる月の中うらやまうらひてまうくしよくかきりて

光孝皇院入及二親王位合持衣端

そわもつとやねらうよめそいせいのうかどらそ

遠久七年百廿八首款 前中納言三三郎

衣うらひとそいそとあまひつらこすあつら月のこと

建保三年丙寅四月前持衣 日

月ようちのそらりやわいそん

遠久六年丙午秋九月前持衣 日

さきしつう月よひひてうら衣つとせあまのそらつらん

ちね取衣うらと 正三位左大臣

あつら乃りうらるね衣のちあまそとあまそつらのこと

平首持衣出 光孝皇院入及二親王

こよひのねらうそら門のたよりそあまそらうね衣う

久安百首 花園右大臣家小入進

かきあめあまそとあつらうらひてまうくしよくかきりて

康平六年十月家并合持衣

右京云孝法師

つらふの衣さるれつ衣はつらふの衣のたつた

正治二年百首 二条院潜夜

つらふの衣さるれつ衣はつらふの衣のたつた

才三親王歌十五首 後二條院潜夜

つらふの衣さるれつ衣はつらふの衣のたつた

後光厳天皇御歌 後二條院潜夜

つらふの衣さるれつ衣はつらふの衣のたつた

後二條院潜夜

つらふの衣さるれつ衣はつらふの衣のたつた

永元元年北之息百首 二条院潜夜

つらふの衣さるれつ衣はつらふの衣のたつた

永元元年百首 二条院潜夜

つらふの衣さるれつ衣はつらふの衣のたつた

光厳院入内之御歌百首

中納言定家

つらふの衣さるれつ衣はつらふの衣のたつた

正治二年百首

つらふの衣さるれつ衣はつらふの衣のたつた

貞應三年百首 二条院潜夜

民部卿

霜 中 ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

伝書約信

新除字 ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

宗一 伝書約信

ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

宗一 伝書約信

ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

家集

ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

家集

ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

下巻 ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

叔母 ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

良玉 ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

持衣 ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

雲世 ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

私安元年 ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

ありあけの けしき たら けしき ありあけの けしき

又千首合四首 中勢つらん

少くとも数にじよもむわさう流のありこのことりえうり

二枚百首四首持衣 後系極持衣

昔 ^しりりりり ^{ころも} ^{ころも} ^{ころも} ^{ころも} ^{ころも} ^{ころも} ^{ころも} ^{ころも} ^{ころも} ^{ころも}

貞永百首四首 光徳聖王入道撰政

くまのりつしひいこの國ちんあけゆくのよえうり

建保三年の内書百首鏡持衣

光徳聖王撰

くまのりつしひいこの國ちんあけゆくのよえうり

同日百首 光徳聖王入道撰政

あしひのあししやいしよいしんあけゆくのよえうり

又千首持衣中 後二位極持衣

くまのりつしひいこの國ちんあけゆくのよえうり

新御院入道百首

光徳聖王撰

あしひのあししやいしよいしんあけゆくのよえうり

文治五年十社百首 皇太后撰 大俊成

あしひのあししやいしよいしんあけゆくのよえうり

光徳聖王入道百首

光徳聖王撰

まじりけりておろすにほのまぢのきりぬら

秋の午一申

西門入各の古

わはの川やせむじのうづらのたはてにありて

貞應三年百首持衣 氏名を由成

秋のぬぞれたのり里人もよくぬれせよ

秋の申

指大納言通方

わがしららのものものさへ月よりあつゝ

若のあや首一合 かせ 位二位家澄

やうすしりのめさむにぬれぬと入衣り

水首一 兼持衣

おのころのまのあはれに

秋の申

まじりけりておろすにほのまぢのきりぬら

わがしららのものものさへ月よりあつゝ

貞應三年百首持衣 氏名を由成

わはの川やせむじのうづらのたはてにありて

秋のぬぞれたのり里人もよくぬれせよ

西門入各の古

指大納言通方

646

かきつらむらひのあはれをいふはあはれなる人なるを

光明寺も又左様波家言首句一合はるは抄衣

為中納言定家名

いふ川にわたるたのしみ長きしむらひにたれと

千首句一

成る由家卿

あはれの手あはれをいふはあはれなる人なるを

六指歌

日

あはれなる人なるをいふはあはれなる人なるを

文意元年廿百首 日

あはれなる人なるをいふはあはれなる人なるを

あはれなる人なるをいふはあはれなる人なるを

あはれなる人なるをいふはあはれなる人なるを

正治二年百首

皇太后文安御書

あはれなる人なるをいふはあはれなる人なるを

光厳院入念二首親王家廿首抄衣也

定家御書

あはれなる人なるをいふはあはれなる人なるを

建保四年百首十首合はるは三任花之書

あはれなる人なるをいふはあはれなる人なるを

千首百首廿一合

隆信御書

氏より為御

おのりておのりておのりておのりておのりておのりて

おのりておのりておのりておのりておのりておのりて

敬祐

おのりておのりておのりておのりておのりておのりて

おのりておのりて

おのりておのりておのりておのりておのりておのりて

おのりて

おのりて

おのりておのりておのりておのりておのりておのりて

おのりておのりて

おのりておのりて

おのりておのりておのりておのりておのりておのりて

おのりておのりて

おのりておのりておのりておのりておのりておのりて

おのりておのりて

おのりておのりておのりておのりておのりておのりて

おのりておのりて

おのりておのりておのりておのりておのりておのりて

おのりておのりて

おのりておのりておのりておのりておのりておのりて

おのりておのりて

思ふらふあつたつらき
けしきもあつたつらき
けしきもあつたつらき

けしきもあつたつらき
けしきもあつたつらき

又難くあつたつらき
あつたつらき

あつたつらき
あつたつらき

あつたつらき
あつたつらき

あつたつらき
あつたつらき

三行分トル

あつたつらき

あつたつらき

あつたつらき
あつたつらき

あつたつらき

あつたつらき

あつたつらき
あつたつらき

あつたつらき
あつたつらき

あつたつらき

あつたつらき
あつたつらき

あつたつらき

あつたつらき

急中一

二条大自と書文抄

松平定信の御書

家業

後二位家澄白

松平定信の御書

千五百箇年合判命

松平定信の御書

義久後百箇年一

日

松平定信の御書

家業

和泉式部

松平定信の御書

千五百箇年一合

第六納之忠良

松平定信の御書

建保三年の御書

松平定信の御書

昌泰四年八月合

松平定信の御書

西暦二年一箇首

後二位家澄白

松平定信の御書

後系松平政康年一合

松平定信の御書

内はしるまゝ

鎌倉右大臣

あしはらふのうらうらけのうらうらけ

歌集

あはれの人

すいふたふたのうらうらけのうらうらけ

久井百首

森羅就隆公

あしはらふのうらうらけのうらうらけ

武蔵野

あはれの人

あしはらふのうらうらけのうらうらけ

歌五十一首

在女院入念二首

あしはらふのうらうらけのうらうらけ

建保三年一月廿四日百首

伝書

あしはらふのうらうらけのうらうらけ

あはれ

伝書

あしはらふのうらうらけのうらうらけ

竹林苑の香風

あしはらふのうらうらけのうらうらけ

急守

伝書

あしはらふのうらうらけのうらうらけ

くす

明徳元年

貞和元年八月日東寺合度
折

梅の義助

杜
す

引
根
日

浪
波
日

遠久元年百々
弟中御

社
御

社
御

百首
御

貞和二年七月
合

梅の義助

貞和元年
合

指宿の巻

あふるの浦みちのりしむらじのりしむらじ

あふる絶色

日

あふるの浦みちのりしむらじのりしむらじ

あふる絶色

あふる絶色

あふるの浦みちのりしむらじのりしむらじ

あふる絶色

あふる絶色

あふるの浦みちのりしむらじのりしむらじ

あふる絶色

あふる絶色

あふるの浦みちのりしむらじのりしむらじ

あふる絶色

あふるの浦みちのりしむらじのりしむらじ

あふる絶色

あふる絶色

あふるの浦みちのりしむらじのりしむらじ

あふるの浦みちのりしむらじのりしむらじ

あふる絶色

あふる絶色

あふるの浦みちのりしむらじのりしむらじ

あふる絶色

あふるの浦みちのりしむらじのりしむらじ

植

古秋下

讀人不知

讀人不知

春

春

春

春日

真書

4

三行分九

折

池

九十九首菊中一
堤三條内名

しるしにふるふるは
ひらきぬむらさき
しらゆきのみよこ
あはれをこころ
にまじりてみゆ

延享十三年十一月一日菊合中

坂上三郎

秋続吉秋下

大正二年八月廣田社令合判菊合後

ふりつけにわ
まらぬ
たのしみ
のころは
あはれ

勝貞
文意三年七社百三
合判菊合
のころは
あはれ

伴菊

あはれをこころ
にまじりてみゆ
しらゆきのみよこ
あはれをこころ
にまじりてみゆ

名借あり

菊のつぼみ
あはれをこころ
にまじりてみゆ
しらゆきのみよこ
あはれをこころ
にまじりてみゆ

菊のつぼみ

大正二年八月

かき

吾輩の... お

弘安元年一首

はな... お

秋の... お

柿本...

日

秋の... お

...

新々秋下

...

...

...

...

...

九日

忠孝

六丁一菊

忠孝集 貫之集

...

...

...

身... お

...

...

日

...

...

皇

...

...

...

業集物語

丁イねるおみりかみ人のうらまひのりらるる人の結むすむ

伊勢物語

湯成院ゆなりの品しななる伊勢

家いへ

ゆかりのちあまのうらまひのりらるる人の結むすむ

天曆七年十月日裏の品しななる伊勢

中勢

玉たま杖下

玉杖たまづえのりらるる人の結むすむ

杖づえ中

玩あそび

杖づえのりらるる人の結むすむ

万よろず代

万代よろずよのりらるる人の結むすむ

業集わざあひら中なまのりらるる人の結むすむ

持大もちだい約やくと

やのり上のりらるる人の結むすむ

けしきけしきのりらるる人の結むすむ

山やま流なが水みづ洗せん南なん飲のむ其その水みづ人ひと寿しゆ如ごと鶴つると

延喜二年十二月えんぎにねんじふにがつ前まへ太た政せい大だい官くわん卒すつ加か入いのの屏びん凡ぼん

元捕

いづれにあらはるる人の結むすむ

形かたち名な古ふる事こと奇き

源道所

いづれにあらはるる人の結むすむ

如ごとえはは原はら

船久三年九月五日 舟倉
船久三年九月五日 舟倉

江中静賢

黄金

洗

船久三年九月五日

舟倉

大蔵

船久三年九月五日

舟倉

船久三年九月五日

常盤百首 舟倉

船久三年九月五日

船久三年九月五日

舟倉

船久三年九月五日

舟倉

舟倉

船久三年九月五日

船久三年九月五日

船久三年九月五日

船久三年九月五日

船久三年九月五日

船久三年九月五日

歌集末巻の中

友東忠房

かきつばたの花は祿しむらじり花のうらみは正しむらじり花のうらみは

家集末巻

西行上人

つばきよのうらみは正しむらじり花のうらみは正しむらじり花のうらみは

十訓百首

家集末巻

かきつばたの花は祿しむらじり花のうらみは正しむらじり花のうらみは

あまのつばきよのうらみは正しむらじり花のうらみは正しむらじり花のうらみは

つばき

かきつばた

かきつばたのうらみは正しむらじり花のうらみは正しむらじり花のうらみは

久世百首

かきつばたのうらみは正しむらじり花のうらみは正しむらじり花のうらみは

かきつばたのうらみは正しむらじり花のうらみは正しむらじり花のうらみは

伴野記

かきつばたのうらみは正しむらじり花のうらみは正しむらじり花のうらみは

かきつばたのうらみは正しむらじり花のうらみは正しむらじり花のうらみは

かきつばたのうらみは正しむらじり花のうらみは正しむらじり花のうらみは

かきつばたのうらみは正しむらじり花のうらみは正しむらじり花のうらみは

院令

院令

かきつばたのうらみは正しむらじり花のうらみは正しむらじり花のうらみは

九十九首菊弁中

後三位のうらな

のうらな... (vertical text)

祐子内親王歌弁中 九月九日

のうらな

のうらな... (vertical text)

久世百首

大炊内門右大臣

のうらな... (vertical text)

百首弁菊花重

弁蓮法師

のうらな... (vertical text)

中集

後播州院

のうらな... (vertical text)

二条院大嘗會

中の人

のうらな... (vertical text)

中集

中納言

のうらな... (vertical text)

九十九首菊弁中

のうらな... (vertical text)

のうらな... (vertical text)

のうらな... (vertical text)

のうらな... (vertical text)

Handwritten signature at the bottom left of the page.

永久二年十一月廿五日

Vertical handwritten text on the left side of the page.

後三位院

光喜院

Main body of handwritten text on the left page, including several red annotations.

Main body of handwritten text on the right page, including several red annotations.

此のあはれなる御人の御事なればとて御心遣ひの御事なればとて

主 幸方出陣向

前中納言 進目

あはれなる御心遣ひの御事なればとて御心遣ひの御事なればとて

堀河院の御事

日

あはれなる御心遣ひの御事なればとて御心遣ひの御事なればとて

承久四年十月九日 仲實の旨

あはれなる御心遣ひの御事なればとて御心遣ひの御事なればとて

寛治元年 女中入内出陣 幸陽の旨

前中納言 進目

あはれなる御心遣ひの御事なればとて御心遣ひの御事なればとて

後三信 幸陽の旨

あはれなる御心遣ひの御事なればとて御心遣ひの御事なればとて

可 幸陽の旨

前中納言 進目

あはれなる御心遣ひの御事なればとて御心遣ひの御事なればとて

寛治二年 十月 幸陽の旨

後三条内侍

あはれなる御心遣ひの御事なればとて御心遣ひの御事なればとて

常務御事 入内出陣の旨

あはれなる御心遣ひの御事なればとて御心遣ひの御事なればとて

氏方の御事 御

Handwritten musical notation on a staff with a red clef and a red '5' below it.

笛音

日

Handwritten musical notation on a staff with a red clef and a red '5' below it.

文信六年一社百首

笛音

Handwritten musical notation on a staff with a red clef and a red '5' below it.

笛音

日

Handwritten musical notation on a staff with a red clef and a red '5' below it.

笛音

笛音

Handwritten musical notation on a staff with a red clef and a red '5' below it.

千之百首

笛音

Handwritten musical notation on a staff with a red clef and a red '5' below it.

笛音

Handwritten musical notation on a staff with a red clef and a red '5' below it.

笛音

Handwritten musical notation on a staff with a red clef and a red '5' below it.

笛音

Handwritten musical notation on a staff with a red clef and a red '5' below it.

笛音

Handwritten musical notation on a staff with a red clef and a red '5' below it. Includes red annotations '新拾秋下' and '新'.

久野山

續千秋下

久野山

年合一

指大納言

久野山

百首

明徳院

久野山

是後西院

久野山

大納言

久野山

後山

久野山

前山

久野山

寛政元年

已上三首下句
同敷

久野山

寛政元年

久野山

文治元年

久野山

夫水知歌抄卷第十四
終

